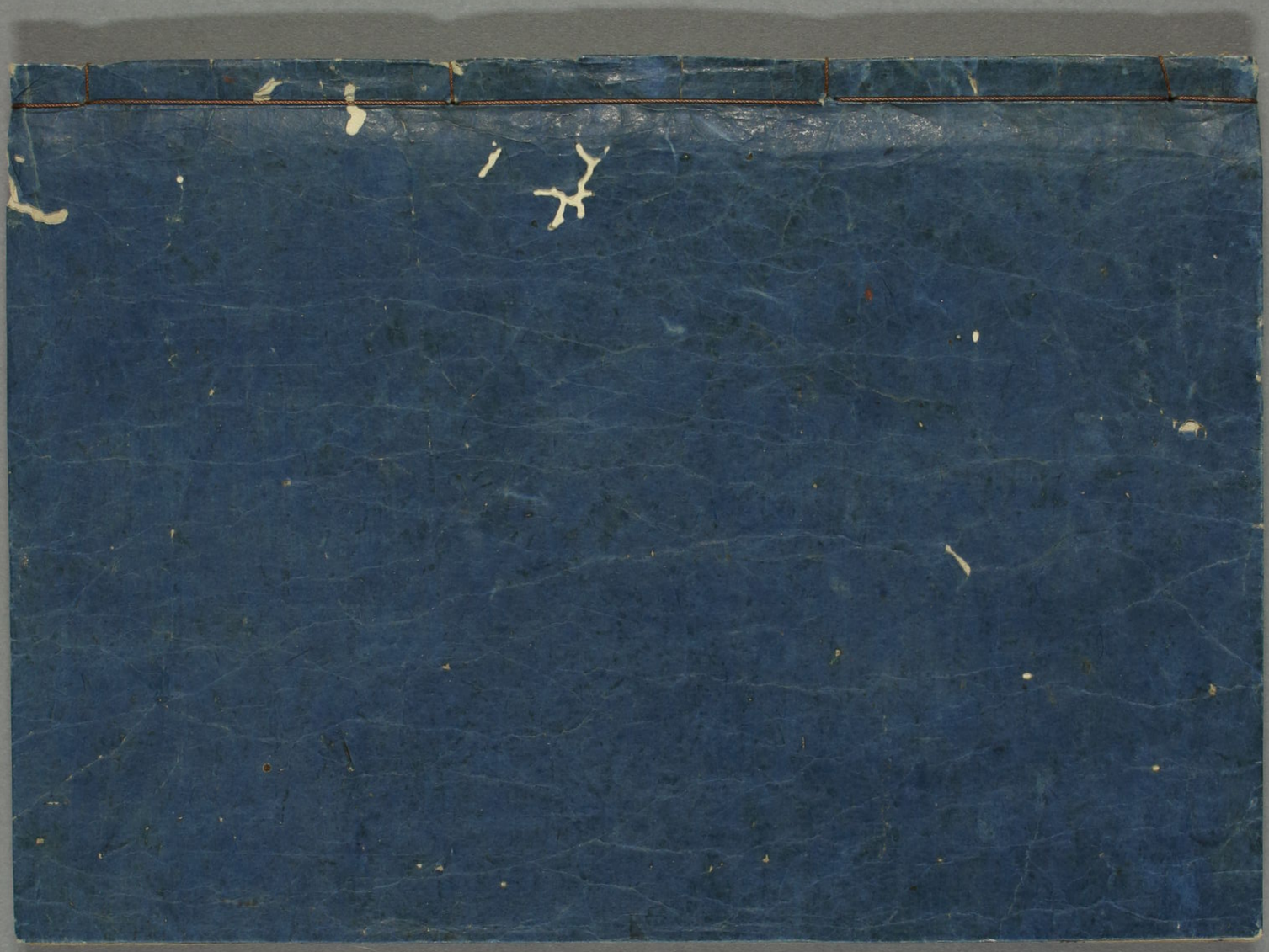


和漢朗詠集上

春

立春 初丁
早春 同
春興 二丁
春夜 三丁
子日 付若菜 三丁
三月三日 付桃 四丁
暮春 五丁
三月盡 六丁
潤三月 同
鶯 七丁
霞 八丁
雨 同
梅 付紅梅 九丁
柳 十丁
花 付桜花 十一
躑躅 十三

歎冬 同
藤 十四
夏
更衣 十四
首夏 十五
夏夜 同
端午 同
納涼 十六
晩夏 同
花橘 十七
蓮 同
郭公 十八
螢 同
蟬 十九
扇 同
秋
立秋 二十
早秋 同
七夕 二十一
秋興 同
殊晩 二十二
秋夜 同
八月十五夜 二十三 付月
九月九日 二十五 付菊
九月盡 二十八
女郎花 二十七
萩 同
蘭 同
槿 二十八
前栽 同
紅葉 二十九 付茨菓
鴈 三十 付嵯鴈
虫 三十一
鹿 三十二
露 同
霧 三十三
擣衣 三十三

冬

初冬 三十四　冬夜 同　歲暮 同　爐火 三十五

霜 同　雪 三十六　氷 三十七 付春氷　霰 同

佛名 同

此詩上之句第四字の心五之吹風之芳菲の候と八長夜の妙樂天居脂の西の方に池上匂ハ柳の緑

則八方民歡樂之故水面の氷新知ハ春を不と云

池凍月含春　水東九解冬色

春

神農本草云春夏陽秋冬爲陰

立春　内宴進花賦紀叔望

公業億

逐吹潛開不待芳菲之候迎春作變將希

雨露之恩　公業億

池凍東頭風度解窻梅小面雪封寒　勝茂

柳絮氣力絶緩緩やはらかに

柳絮氣力條先動池有波文氷盡開　白

今日不知誰計會春風春色一時来　白

夜向殘更寒磬発春生香火曉爐燃　良春

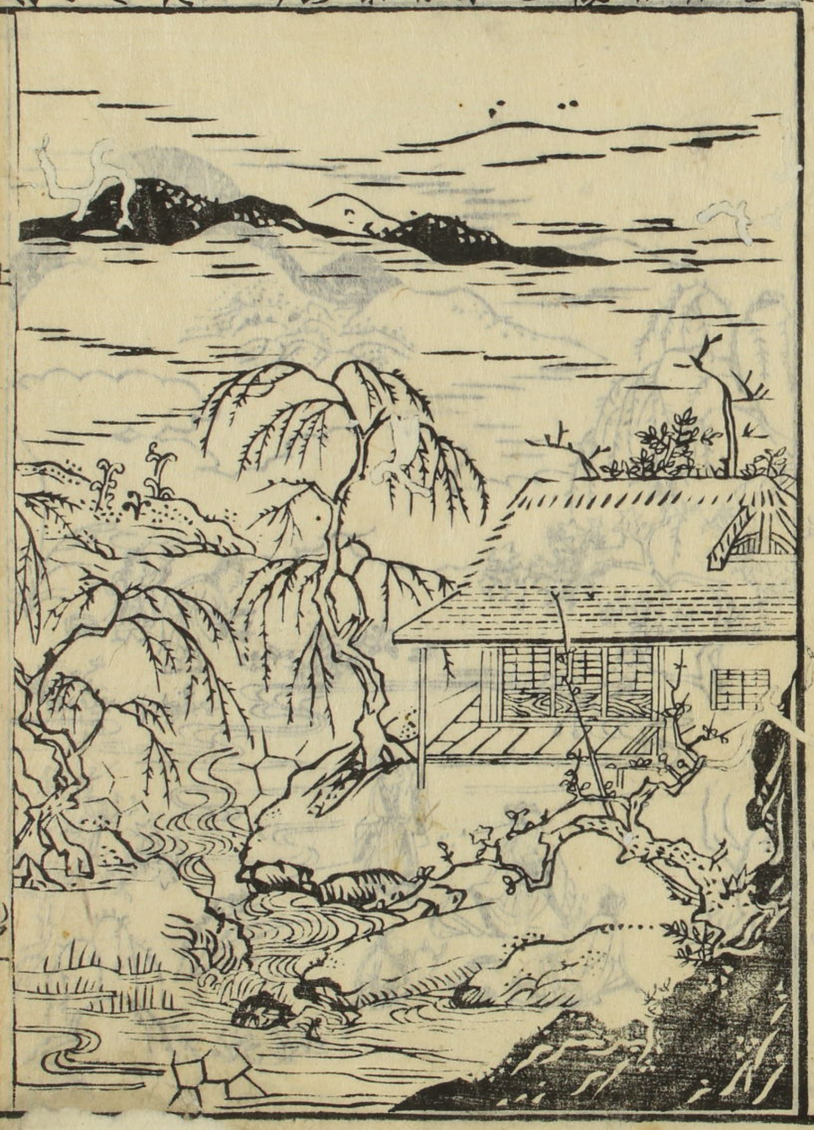
早春

氷消田地蘆錐短春入枝條柳眼低　元稹

先遣和風報消息續教啼鳥説来由　白

甲春氷消田地の水ぬるむ春水消田地

元稹が樂天の許送詩題　鬼もそそ須臾の夢ぬるる心　先遣和風此詩春



野草　此詩唱和集ハ[illegible]と春草色花嘆[illegible]の時[illegible]也[illegible]

去の[illegible]去　線[illegible]

也　[illegible]羅[illegible]など

[illegible]

[illegible]領[illegible]

[illegible]上

[illegible]月の[illegible]

山[illegible]

東岸西岸之柳運速不同庭枝小枝之梅

開家已異

紫塵嫩蕨人拳手碧玉寒蘆錐脫囊　野相公

氣霽風流新柳愛氷消浪洗舊苔鬚　都良香

晴砂綠林變容輝宿雪紅紀納言

保胤

眠寤集　能忠朝臣光彩中二

腹赤　菅原氏後姓改都良香之父也

輔昭　[illegible]

海成　[illegible]

野草　此詩唱和集ふるこ　[illegible]と春草色花咲時[illegible]也あよりかうそんの花と云遠絲とへ
去のそをと云　線
孔ぐつとと云と
也　[illegible]羅などと
[illegible]
[illegible]領とそうづ
[illegible]上
陽[illegible]月の[illegible]
山桃　是結[illegible]
麝塵と[illegible]
[illegible]　[illegible]野遊
織と云事春の
[illegible]遊絲の孔
[illegible]織おりつ[illegible]

東岸西岸之柳運速不同庭枝小枝之梅
開家已異　保胤
紫塵嫩蕨人拳手碧玉寒蘆錐脫囊　野相公
氣霽風梳新柳髮氷消浪洗舊苔鬚　都良香
庭增氣色晴砂綠林變容輝宿雪紅　紀納言
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]

春興　玉石金

花下忘歸因美景樽前勸醉是春風　白

野草芳菲紅錦地遊絲繚亂碧羅天　劉禹錦

歌酒家家花處處空管領上陽春　白

山桃薄野桃曝紅錦之嶋門柳復岸柳

風宛麩塵之絲　紀齊名

著野展敷紅錦徧當天遊織碧羅綾　野相公

林中花錦時開落天外遊絲或有無　田達音

笙歌夜月家家想詩酒春風處處情　菅三品

春夜

[illegible]

子月　此集秋晩の子月の行業序也　慶騰とハ氣ものゝ心之

子月　此集秋晩の子月の行業序也　慶騰とハ氣ものゝ心之

名業
野中老業と云
八野にうつる心
つとうの心なり
世事と是也
ゆつるのおもひ
すると云なり
蕙心を安と云也
詩の心八世事を
はなれ心
ひそとしら
さもなる心なり炉
下と云也とく
なるの張八
ものの人
蕙拙と云義也

宵蜀宵憐深夜月踏花同惜少年春　白

子日　付和業

倚松樹以摩腰習風霜之難犯也　和業義

而啜口期氣味之克調也　菅

傍松根以摩腰千年之翠満手折梅花而

挿頭二月之雪袖衣　尊敬

三月三日付拙句三月三日に俗の事を拙句のあらましとして仙遊と云

と云なり　拙句

孫のひとくやちよのはつ小松

れのむすめのこころのさかりをハ

ちよせくうれしとひらけ

きくてひらけて千代や孫ぬ　紀貫之

若業

野中老業世事推之蕙心爐下和義俗人

属也義指

あかつかつかつ

三月三日　付桃

春来遍是桃花水　不辨仙源何處尋　王維

昔之春月　三朝天醉于花桃李之盛心

我君一日之澤　万機之餘曲江遥遺塵

鉢絶書巴字而知地勢思魏文以散風流

蓋志之所之謹献少序云尒　菅

煙霞遠近應同户桃李淺深仰勸盃　菅永輔

水成巴字初三日源起周年浸幾霜　菅義茂

礒石遲来心緩待牽流遥乃手先遮　菅雅規

桃

夜雨偷濕胃波之眼新嬌曉風緩吹不言之厚先咲　紀納言

[illegible]

暮春

拂水柳花千方點　隔樓鶯舌兩三聲　元稹

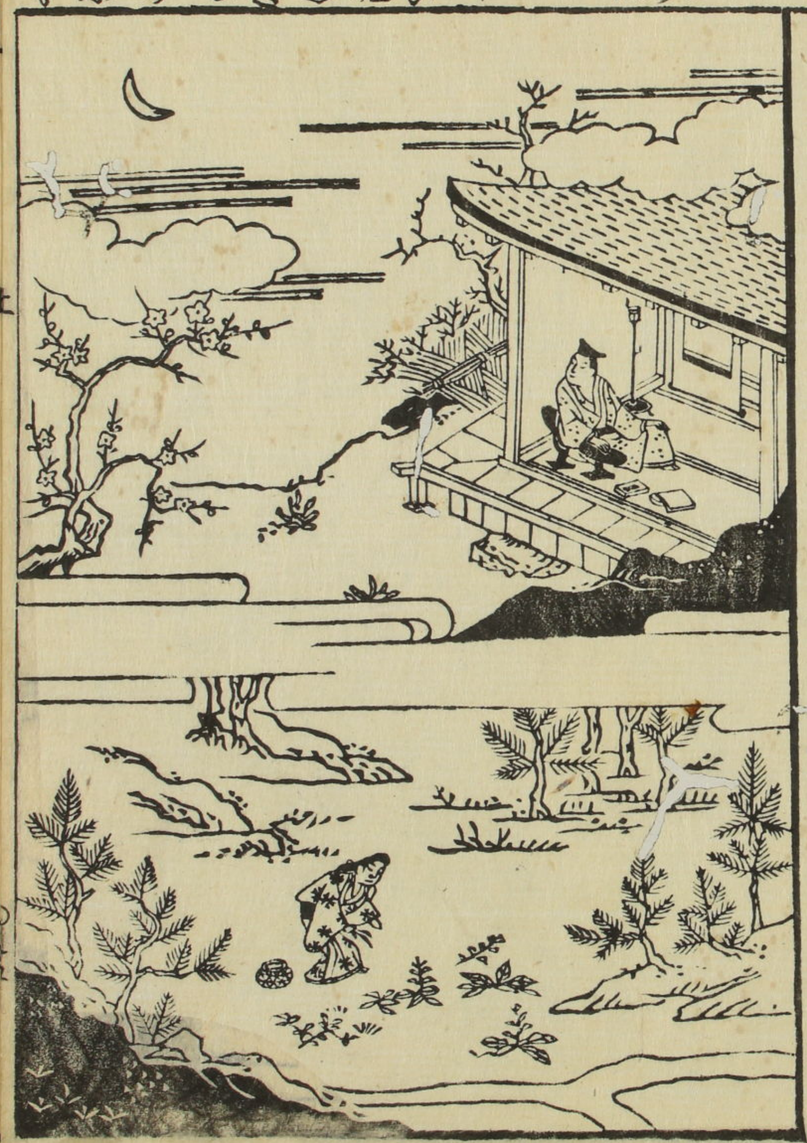
低廻沙鴥潮落時　亂絲野馬草深春　菅丞相

人無更少時須惜　年不常春酒莫空　小野篁

劉伯若知今日好　應言此處不言何　源順

[illegible]

[illegible]



三月盡　白

留春々不駐春歸人寧冥默風々不定風

起花蕭索

竹院君閑消永日花亭我醉送殘春　同

悄悄春歸留不得紫藤花下漸昏昏　同

送春不用動舟車唯別殘鶯與落葉　菅水相

若使韶光知我意今宵旅宿在詩家

心ゑり

留春不用関城固花落随風鳥入雲　尊敬

行恒

[illegible]

[illegible]

[illegible]

咽霧山鶯啼尚少穿河蘆笋葉繞分　元稹

臺頭有酒鶯呼客水面無塵風泛池　白

驚聲誘引来茅下草色拘留坐水邊　白

感因類於相求雛鴻去在之應春轉名異氣而終混就吟魚躍乍伴曉啼　菅三品

燕姫之袖斷收猜繚乱於舊拘周郎之簪頻動頂間闌於新花　同

新蹈めり今穿雲舊巣為後屬春雲　菅丞相

西樓月深花間曲中殿炉残竹裏音　菅三品

霞

霞光曙後設於火草色晴来嬾似煙　白居易

鑽沙草只三分許跨柳霞纔半段餘　菅丞相

雨

或垂花下潸增墨子之悲時舞鬢間晴動

潘郎之思　都在中

長楽鐘聲花外発龍池柳色雨中深　李嬌

花新開日初陽潤鳥老歸時薄暮陰　菅三品

斜脚暖風先扇處晴聲朝日未晴程　保胤

梅付紅梅

白片羨梅浮澗水黄稍新柳出城墻　白居易

梅蕚帶雪飛琴上朽色和煙入酒中　章孝標

漸薫臘雪新封裏偷綻春風未扇先　村上佛菴

青絲纔出陶門柳白玉裝成庾嶺梅　後在相公

五嶺蒼々雲往来但憐大庾萬株梅　七言絶句の詩

雁言春色後東到霞暖南枝花如開　菅三位

いゝ〜〜〜

嶺の長こえに
ゆく水あるさい
り 絶こてう
ハ ちりうれ
ぬよ こすり

紅梅

鶴亭

ゆくとこにあんとはしめの
ちれもそもそもかの千乃ふれ
かとともくくれ梅のふ
はやもくくんそもくふくそ

松恒

梅含雞舌兼紅氣江弄瓊篇帶碧文 元稹

浅紅鮮妍仙方之雪炯色濃春家都妓爐

橘正通

之煙讓薫

有色易分殘雪底無情難辨夕烏中

前中書王 乗明

三位貴ふくり
三の庚を初めとして
の庚を仲秋と云
[illegible]
[illegible]
[illegible]

花

付落花

花明上苑輕軒馳九陌之塵猿叫空山斜月瑩千巖之路　長讀

池色溶〻藍染花光焰〻火燒春　白

遥見人家花便入不論貴賤與疎踈　白

表裏一入再入之紅　菅三品

誰謂水無心濃艶臨弓波變色雁押花不語輕漾激兮影動脣　菅三品

欲謂之乎則漢女施粉之鏡清瑩欲渭之花亦蜀人濯文之錦粲爛　順

織自何絲唯暮雨裁無定樣任春風　菅三品

花飛妙錦幾濃粧織者春風未疊絹　源英明

始識春風機上巧非唯織色織芬芳　同

眼負蜀郡裁殘錦耳傳秦城調古箏　源相規

落花

落花不語空辭樹流水無心自入池　白

朝蹋落花相伴出暮隨飛鳥一時歸　同

春花面〻闌入酬勝之延曉囀聲〻豫講頭〻座　後江相公

落華狼藉風狂後啼鳥就鐘雨打時　同

雛閣鳳翅憑檻舞下樓蛾袖顧階飜　菅三位

躑躅

晩葉尚開紅躑躅秋房初結白芙蓉　白

夜遊人欲尋来把寒食家應折得鶯　源順

欵冬

黙着雖笑天有意欵冬誤綻暮春風　清原

書窓有卷相收拾詔紙無文未奉行　保胤

藤

悵望慈恩三月末紫藤花落鳥關関　白

紫藤霞底殘春色翠竹煙中暮鳥聲　源相規

紫茸偏奪朱衣應是花光忘憂臺　順

夏

更衣

青壁燈殘経宿焔開箱衣帯隔年香　白

生衣欲待家人着宿釀當招邑老酣　菅

首夏

甕頭竹葉経春熟階底薔薇入夏開　白

客生石高輕衣短荷出池心小蓋疎　物部安興

わつかなるのくさ弥やけるばかりなりけるとゆるるもりかな　順

夏夜

風吹枯木晴天雨月照平沙夏夜霜　白

凡生竹夜窓間卧月照松吋臺上行　白

空夜窓閑螢度後深更竹白月明初　紀網言

夏の夜をれやにのこるひとき
ふるはなやおそきさくらん　人丸

ちくさなるこゝろもさくらつゝ
ぬしはいろとはいつも　同

なれのみはぬかのうれそはかすかに
なくこゑのしのの　雅茂

端午

有時當戸危身立世意故周任脚行　菅

わうこまやくるふしわひくるはやめくさ
たひとくるやまくるなん　相茂

ちくさ人ちくさ
もしべ
宿梅の九月の
醸角丁ん
村里の初
みなり

麗　酒へ也作
菜の色　紅
春の色
つ
ん
菊
菜
の
色
秋
の
色
水
の
色
月
の
色
心
池
の
みなり
蓋
ぬ
さ
陳

きのふくるしもあやめくさ
ふるはたもとをしぼるかな　祐宣

納涼

青苔地上消殘雨緑樹陰前逐晚涼　白

露簟清瑩迎夜滑風襟菊潔送秋涼　同

不足禪房無熱到但能心靜即身涼　同

班婕妤團雪之扇代岸風兮長忘熱昭王

拓涼之珠當沙月兮自得　匡衡

臥見新圖瞻障行吟古集納涼詩　菅

池冷水無三伏夏松高風有一聲秋　源英明

すゝやくるすまもとけいの
けさもとこなつのゆ
ふかぜかすかに秋をかよ
ふいけのこゑ　中務

ふけいけのみぎはにうつる
なつふかきそらにいとゞ
月ひろくすまれ　藤原為忠

晩夏

竹亭陰合偏宜夏水檻風涼不待秋　白

夕雲の雲のまゝ一ふ蟲聲ふさひしきてんかり

端午　此時菅公優劣任国その所作なり　有時有空ゝ　ぎあて　祝を作り

なかれそとふきとをさはさとこゑ　中務

いつれのさとにかさはさはんと
弱きこゑもきこえすはなきすわ
ゝ　ゆるしたる　秋多

ふかきこゑもきこえすはなきすわ
ゝ　ゆるしたる　秋多

花橘

盧橘子低山雨重栟櫚葉戰水風涼　白

枝繁金鈴春雨後花薰紫麝凱風程　源中重

さつきやみ　ふるさとの花のとをるまは　伊勢

むかしの袖のかをとする

わすれぬもとりてまもりぬ　後人中立

蓮

風荷老葉菊條綠慕殘花蕣寞紅　白

葉展影飜當砌月花開香散入簾風　白

煙開翠扇清風曉水泛紅衣白露秋　許渾

岸竹枝低應島宿潭荷葉動是魚遊　紀在昌

緣荷更覓吳山曲便是吾君座下花　延喜御製

經為題自佛為眼知汝花中植善根　源為憲

一聲山鳥曙雲外萬點水螢秋草中　許渾

明月の夜ほとゝぎす

螢火亂飛秋已近　辰星早沒夜初長　白

蒹葭水暗螢知夜　楊柳風高鴈送秋　許渾

明々仍在沂追月光　於屋上皓々不肯崑

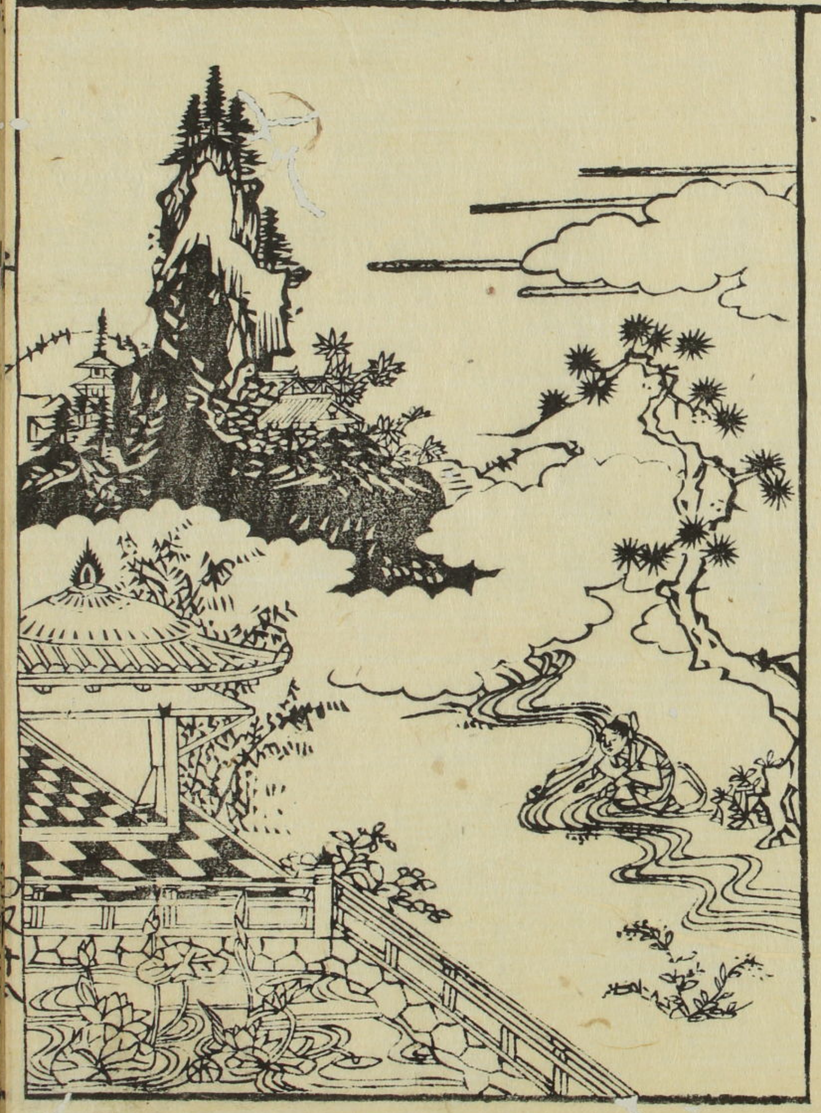
積雪片片床頭　紀納言

山経宮裏疑過岫　海賦篇中似宿流　橘直幹

くさぶかくしげりあるやのそのひの　赤人

かせたにきりはれぬるかぜのはなけむり　此

ゆふぎりのたちのぼりたるなり



千峯八月の峯也
連峯也▲ちり塵也
の心りの名と云りん
▲色ヲ彩無しの連
らの中に生る色ん
▲秦苑は始皇の
ひいき強らせの
るり▲蕭条秋の
物の名月に秋の
こころ也こゝ中て
漢文の句も混雑
ゝ▲七年 劉邦
あり▲歳去歳
来 年の心ばの
去年一ぬ也知れ
ずと長恨秋の
海じ色くゝ

蟬

遅々兮春日玉甃暖兮温泉溢嬉々兮秋風山蟬鳴兮宮村紅　白

千峯島踏含梅雨五月蟬聲送麥秋　李嘉祐

島下浄蕪秦苑寂蟬鳴兮葉漢宮秋　許渾

今年異例勝先断不是蟬知客意悲　菅

歳去歳来聽不變莫言秋後遂為空　紀納言

いとをうらとをとを
をとをとをの脱に
あるべきうつせとを云
心なり

盛夏一扇を賦せるなり

▲銷夏　涼をとる

なつやまのうるはしさをみせんとて乃ちかをれハ
こゝろにもせしこゝろをきてゆる
山井をとよんとおもひしてて
ねをなくもしのをきるすゝさよ

人丸

扇

盛夏不消雪終年無風引秋生手裏藏

白

月へ懐中

不期夜漏初侵暁秋風未到前

菅三品

白

なつのよのうち漏なきすゝ

▲秋　蕭然心秋風と我老鬢を吹て
ゆくかなを人今ハ
秋の来るよりも
しるしあるとそ
鶏なくるー庭を作
ものの▲秋ちかのハ
紅葉のの葉の色
▲雁ちかのの
ハ
▲鶏　ちかのの
ちるの
▲微　
うちつの
ちりまと云

▲秋

立秋

蕭風涼風興衰鬢雁教計會一時秋

白

鶏漸散閑秋色少鯉常趨處晩聲微

保胤

秋なかはかくれ
ちるかとそ
ちるかとそ

ふさはせに
きくうちに
なしひとくも
わるとに川
そをすれかを
ちるかをに
ちるかをに
ちるかをに
ちるかをに

[illegible]

早秋　俊重

但喜暑随三伏去不知秋送二毛来　白

槐花雨潤秋地桐葉風涼欲夜天　白

炎景剰殘衣尚重晚涼潛到筆先知　紀家

[illegible]

七夕　安貴王

七夕　長乞巧

[illegible]

憶得少年長乞巧竹竿頭上願絲多　白

二星適逢未叙別緒依依之恨五夜將明

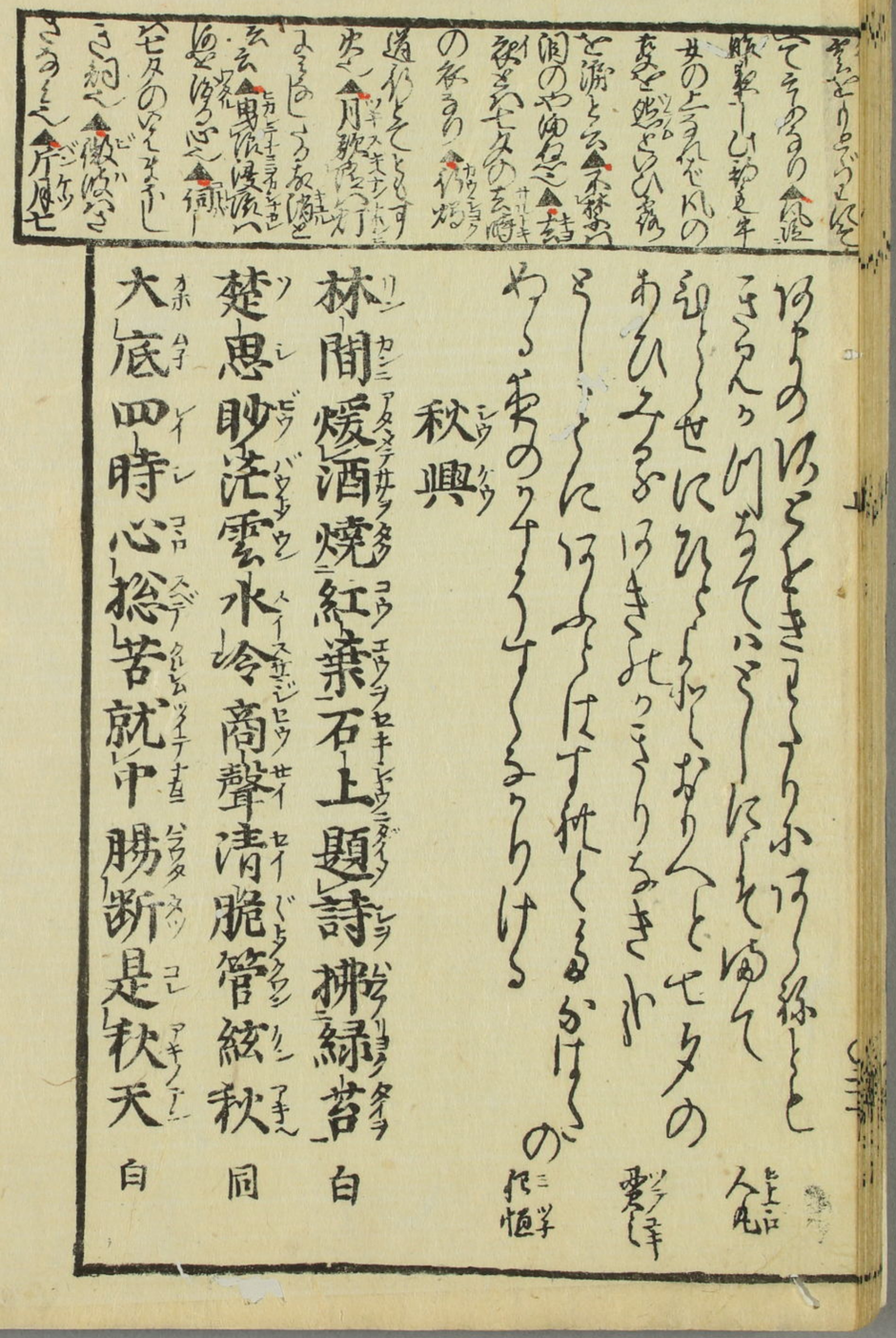
虫驚涼風孤孤之聲　小野義材

露應別淚珠空沃雲是殘粧髻未成　菅

風役昨夜聲弥怨露及明朝淚不乾　菅三子

去衣曳浪霞應濕行燭浸流月欲銷　菅原昭

泪託微波斯且遣意期片月欲為媒　菅



秋興

林間煖酒燒紅葉石上題詩拂綠苔　白

楚思眇茫雲水嶺商聲清脆管絃秋　同

大底四時心摠苦就中腸斷是秋天　白

物色自堪傷宋玉將愁字作秋心　野相公

由来感思立秋天多被當時節物牽第一

傷心何處最竹風鳴葉月明前　白達音

蜀茶漸忘浮花味望練新傳擣雪聲　江相公

秋晩

なきのはきけるかな

ふるそれそもそうそう

何をかはゆめのうつつ

なきのうはかぜ

秋晩

なれのあたくまの

男四

相思夕上松臺立蟬聲滿耳秋　白

望山幽月猶藏影聽砌飛泉轉倍聲　管三品

おくやまのつきはなほかくれすきかのうへにみるかけのゆくへ　藤行孝

秋夜長荻長無眠天不明耿々殘燈背壁影蕭々暗雨打窗聲　白

遲々鐘漏初長夜耿々星河欲曙天　白

萩の上に露ありて月の光を見て人を思ふ　▲蟬聲　蟬の鳴くこゑ　▲耳秋　秋の時分　▲松臺　松の高き臺　▲幽月　遠く隔たる月　▲藏影　月の影を隠す　▲砌　ミギリ　▲飛泉　高き所より流れ落ちる水　▲倍聲　聲の響き　▲殘燈　消えのこる燈　▲背壁　壁に向かひて　▲耿々　明らかなる貌　▲星河　天の川　▲欲曙天　夜明けの空

鶯子樓中霜月夜秋来只有一人長　同

寡草露深人定後疎雲月明前　野相公

蒹葭州裏孤舟宿榆柳營頭萬里心　菅名

あしひきのやまもとをのそらとのの　人丸

みかくしによりてもれん

むしのこもりくるあのをとそうつ

いつはのまもなくてあはれ　拾遺

八月十五夜付月

秦甸之一千餘里凜々氷鋪漢家之三十

六宮源々粉飾　公業億

織錦機中已辨相思之字擣衣砧上俄添怨別之聲　同上

三五夜中新月色二千里外故人心　白

嵩山表裏千重雪洛水高低兩顆珠　同

十二迴中世勝於此夕之好千万里外各爭於吾家之光　紀納言

碧浪金波三五初烟凡計會空虛自疑

荷葉凝霜早人道盧溪過雨餘岸向還迷

松上鶴潭蚪可算藻中魚瑶池便是尋常　厚茂

号此夜清明玉不如

金膏一滴秋風露玉匣三更冷漢雲　菅三京

抱叟妃歸唐帝思李夫人去漢皇情　源順

流とわかれを惜む

月

八月末の月のあるは是れ人の心上

白

楊貴妃　心気

秋の月の光速

月と共に船出

月　作人踏外

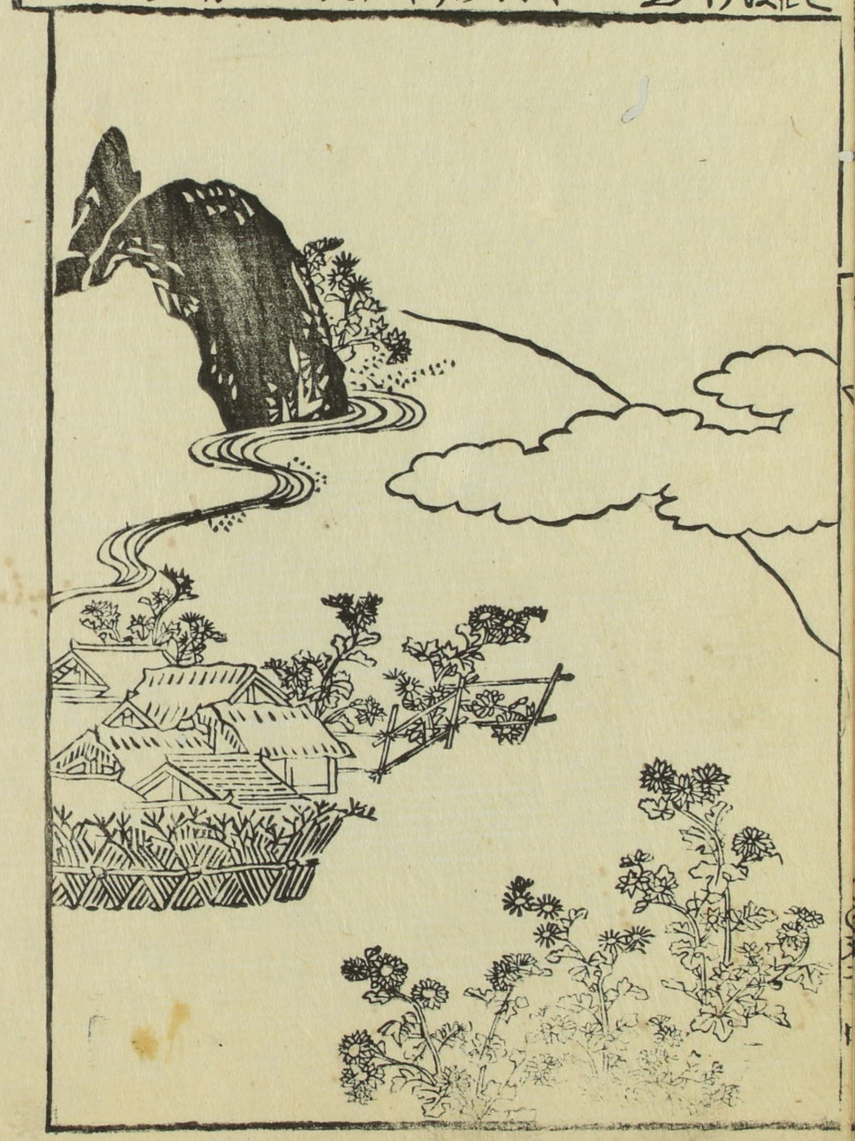
月明の夜の雲

月の光

月の出

月の出

月の出



九月　社月二月
八月長月秋月
ゆふらの月　戌の日
ゆふくの祭と云
▲撫物　菊酒
▲菊酒　菊童

九日　付菊

燕知社日辞巣去菊為重陽冒雨開　皇甫冉

採故事於漢武則赤黄囊宮人之衣尋舊
跡於妃文亦黄花助彭祖之術　紀作言

先三遍弓吹其音ゆ曉星ゑ轉河漢引十

分ゆ蕩ゑ彩疑秋雲之迴汐川　同上

谷水洗花汲下流而得上壽者三十餘家

地脉和味食日精駐年顏者五百箇歳　同上

いくとせをかさねてもいつくのそらをなつかしむ

中務

菊

霜逢老鬢三分白露菊新花一半黄　日

不是花中偏愛菊此花開後更無花　元稹

嵐隈欲暮契松栢之後凋秋泉早移潮之

蘭之先敗　紀貫之

鄙縣村間時潤屋陶家兒子不垂堂　三善清行

蘭莞自慙為俗骨槿籬不信有長生　安倍保衡

蘭蕙莞嵐摧萎後蓬葉向月照霜中　菅三品

花さくものとはなくみるからにはやまとなでしこ

紀貫

九月盡

縱以崎嶇爲固難留蒲瑟於雲衢細令孟

賣而追何遮爽籟於風境　順

頭自孤隨禪宮乞秋施與太應難　同

文峯按纏向駒景向海艤舟紅葉聲　以詩

[illegible]　千里

女郎花

花色如蒸粟俗呼爲女郎聞名戲欲契俳

老恐悪裏翁育似霜　順

萩

曉露鹿鳴花始發百般攀折一時情　菅

秋のゝみけさかるとのこなるとゝ
ゝやゝ移るとゝのくるけてそ思　人丸

うゝろむしとゝにおかるけさ式
ゝるとゝをけるつゆ哉　伊勢

行きゝ此ゝにたのけきゝ
ゝ志のゝなるとゝ　元物

蘭

前頭更有蕭條物老菊叢蘭三兩叢　白

妖桑豈無影乎浮雲掩而忽昏叢蘭豈不

女郎花　萩　鹿鳴草　名月　▲曉の露

ゝゝ秋風吹而先敗

疑如漢女顔施粉滴似鮫人眼泣珠　都良香

曲驚楚客秋絃裂斷燕姬曉枕薰　直幹

わゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝ

[illegible]

離無投暮之花

[illegible]

前栽

多見栽花恍目傳先時豫養待開遊自吾閑舞家僮俟春栽秋草秋

菅三和

閑思看汝花紅日正是當吾鬢白年

保胤

端中書王

[illegible]

挽歌

文集云 蕤葉日朝霧撞枝光宿花

恍目見歟心

先時預養待開

[illegible]

▲宗繁と穿心静にしておのづと
▲流僮家村の屋僕也
▲宗典着世義紅月沙ゑへんなんと
▲元亮陶淵明

曾非種處思元亮為是花時供世尊　菅丞相

不堪紅葉青苔地又是涼風暮雨天　白

黄纈纈林寒有葉碧瑠璃水淨無風　同

洞中清浅瑠璃水庭之菊踈錦衾　保胤

外物獨醒松澗色餘波合力錦江聲 同

三秋而宮漏正長空階雨滴萬里而鄉園 白

秋庭不拂携藤杖閑踏梧桐葉行 同

落葉

城柳宮槐漫搖岸秋悲不到老人心 同

梧楸景中一聲之雨空滚鶴鵠背上數片之紅淚殘 順

樵蘇往反杖穿朱賞臣之衣隱逸優遊履躋葛雍仙之藥 高相如

隨嵐葉合菊琴戛石飛泉弄雅琴 順

逐夜光為吳苑月每朝聲少漢林風 後中書王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紅葉せし
時雨うけ年月

▲奏新いくわく
飛鳥　▲下流水山
門のあの名く海
未と寿命の名を
さり
▲鶴流ハ生天也
りの時　鶴れの
秋
生蓮ハ紙天の
名　▲教の生命
ハ名

峰
鳳

山腰帰雲斜牽帯水面新虹未展節　都在杜

虫

夜来人耳　白

霜草欲枯虫思苦風枝未定鳥栖驚　同

▲多数の雲也花秋
人の愛　▲八橋ハ
八の吹の舟　鶴
也　満湘外の名

▲市ハれのごひん

▲切く鹿の鶴よ
鳴　鳴く鹿の
の　の
▲思ひ　思ひ
也

床嫌短脚蛩聲閙壁猒空心風孔穿　野相公

山館雨時鳴野亭風處織寒　敦煌

叢邊怨遠風閑晴壁底吟幽月色寒　順

鹿

蒼苔路滑僧帰寺紅葉聲乾庵在林　白

▲名月の名残れの月の▲心故に紅葉の色

▲晴雪の心

▲野辺の秋の心

▲微雨の心

▲秋の心

▲晴雪の心

▲紅葉の心

嘆遣食華身色變更随加草徳風来

紀貫之

露

可憐九月初三夜露似真珠月似弓

白

露滴蘭叢寒玉白風衝松葉雅琴清

源英明

九月三日の夜に江のほとりにて

の吟詠の

詩歌の

のいとびらく

ものする心を

可憐高台

露

滑苔路

菅原道真

人も酒れぬ心
▲食事を人の
の事之▲驕人
いしくしたと云
▲変と云
孔心白蓮の事
▲論語▲
徳風之論語云君
子之徳風小人之徳
草草上之風偃
云

▲
▲
▲

[illegible]

小升星前横旅鴈南樓月下擣寒衣　劉元叔

擣處曉愁聞月冷裁將秋寄塞雲宮　菅筑紫

裁出遲迷長短絮過愁定不肯腰圍　直斡

風底香飛袖拳月前杵怨兩眉低　後中書堂

年〻別思鶺秋鴈夜〻出聲聞曉鷄　同上

[illegible]

冬

▲江南楊子江の南也麟四十里云々　▲三分減八秋杭[illegible]云々　▲蹉跎失時也　▲竹の葉　▲[illegible]

初冬

十月江南天氣好可憐冬景似春花　白

誰家思婦秋擣帛月苦風凄砧杵聲

四時零落三分減万物蹉跎過半明　延喜御製

床上卷收青竹簟箒中開出白綿衣　菅三品

[illegible]

冬夜

[illegible]

▲多流水の如し　▲霜交の風也　▲霜の如く白し　▲似刀　▲霜　▲老底　▲黄疸　▲濁酒　▲紅炉　▲鐵木聚火事礼

一盞寒炉雲外夜數盃温酎雪中春　白

年光自向燈前盡客思唯從枕上生　尊敬

思ひかねかたぶくまくらのうへにゆめはさめてそのこれ　ゆうき君

かうろうのかぜさむしちりくるくるなり

歳暮

寒流帶月浮鏡夕吹和霜利似刀　白

風雲易向人前暮年月難從老底還　良春道

ゆくとしをしくはるくれはてにけりくれゆくとしのくれはてにけり　ゆうき君

▲霜交の風寒きの風　▲鐵木聚火事礼

記の月今よりなり

▲鶴髮　▲月　▲芹雪　▲壞色　▲孤　▲孤　▲四皓　▲漢の世に四人の白髮の翁　▲すべてもにてもしるしなり

みすり

▲三秋九月也

爐火

茶煙緑酯迎冬熟絳帷紅爐逐夜開　白

看無野馬聽世鶯朧裏風光被火迎叫火

應鎖花村取對來竹は有春情　菅三位

他時縱醉賞花下近日那離獸炭邊　輔時

霜

▲君子之交淡の名〻▲夜深てを云掛るとそえて事の間のいきこゝろ▲愛く己の鮮の思ひ▲葛屨ハ葛履てくつのこと▲尾瀧おちら縦らのつ絲のこと▲蓼の尾の形よ処名ゆすり事ゆるこゝ魏の世よ始る▲多多ハ蓼ゆかれこと▲尾表ハ名ゆ指こ

三秋岸雪花初白一夜林霜葉盃紅　温庭筠

萬物秋霜能壊色四時冬日最凋年　白

国寒夢驚或添孤婦之碪上山深感動応侵四皓之鬢邊　紀納言

君子夜深聲不驚老翁年晩鬢相侵　菅相公

拝〻已断花亭鶴歩〻初驚葛履人　菅三承

晨積雨溝鶯変色夜零霜表鶴呑聲　紀納言

▲梁の客ハ梁の客ハ梁の客ハ

▲秋風の返へ春霞の如きもの多し

▲狐腋自然意に入れるしるし云

▲似得群多く友と得と忘れ

▲荘子真相舟に古王子獻の書の多く舟に乗て戴安道を訪しもとくとよりも

▲立お庭上に竹の頭高く坐在爐邊手不龜

▲手不龜荘子宋人有手不龜業

▲玉琴拜 嘱の曲とより詩の心なるのゆゑ

疑澄衆狐之腋

翔似得群栖浦鶴心應乗興棹舟人

紀貫之

村上御製

立竹庭上頭高坐在爐邊手不龜

菅

班女団中秋扇色楚主臺上玉琴拜

尊敬

みやこにはくもゐのつゆのしたくさかりけるしのやまかぜにはるのはなのいろをもいまはきしてかすみのうへにはるのはなのいろをもいまはきしてかすみのうへにはるのはなのいろをもいまはきしてかすみのうへ

▲露咲ハ露の咲ル也▲雪為凝て結ぶ孤疑ハさい筋のうごかぬ氷雪なり氷雪

と知てわるくも也
変ずるなどと知て
ものさらしなり
▲氷消トハ氷の思
雖が南荘の景色
也
▲漢主ハ後漢の
光武皇帝なり
九世の孫なり▲霸王
故事なり▲梁王孝
王なり▲枚ハ枚乗
▲部室ハ部の室
塞ハ小
▲是ハ是も霸王
ハ故事

氷付春氷

氷封水面閉無浪雪點林頭見有花　菅

霜妨鶴唳寒宮露露結孤疑薄有氷　橘如

おぼろなる月のひかりもさむしろ
かすみもうすくはるのあけぼの

七条后宮

春氷

氷消見水多於地雪霽留山岩入樓　白

氷乃漢主應疑霸雪盡梁王不召枚　尊敬

▲麈牙ハ白象也麈牙鞭の義
▲龍頷ハ龍のおとがいなり
▲願くハ願のもじ
▲[illegible]
▲佛名ハ事一貞観格に見へたり
▲自然の法也

胡塞弦能全使節澤池還恐失臣忠相規
やまとけれみちさとりはるかなる
ものこころをやそくらん　慨

霰

麈牙朱鞭輝〻脆龍頷珠投顆〻寒　菅

みやまはいかれるこやはちる
まさりのつ〻ふりにたり　紫式部

佛名

青火一爐炉一盞白頭夜禮佛名経　白

▲[illegible]
▲[illegible]
▲[illegible]

青自禪心無因果花開合掌不因春　菅原道真

[illegible]

玉葉　同

[illegible]

青自禪心

[illegible]

和漢朗詠集上終

此